

令和5年4月6日
国土交通省関東地方整備局
荒川下流河川事務所

首都圏を災害から守り、安心して暮らせる荒川流域を目指して

～令和5年度 荒川下流河川事務所の事業概要～

令和5年度、荒川下流河川事務所の事業概要を紹介します。

荒川下流部の岩淵水門付近から東京湾河口にかけて人工的に開削された荒川放水路は、大正13年（1924年）に通水してから、来年2024年で通水100周年を迎えます。これまで一度も決壊することなく、東京、埼玉の沿川都市の発展を支え、荒川下流部の貴重なオープンスペースとして地域に寄り添ってきました。

引き続き、首都圏を洪水から守るとともに、今後より一層の安心、安全の確保、豊かな自然環境や快適な利用環境の創出を目指すべく、事業を進めていきます。

この度、荒川下流河川事務所における令和5年度の事業概要をまとめましたので、御紹介します。詳しくは、次頁以降の事業概要資料を御覧下さい。

<発表記者クラブ>

竹芝記者クラブ 埼玉県政記者クラブ 都庁記者クラブ 神奈川建設記者会 川口市記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 荒川下流河川事務所

電話：03-3902-2311（代表） メールアドレス：ktr-arage-press@ki.mlit.go.jp

副所長（事業） 門屋 博行（かどや ひろゆき）

副所長（管理） 渡辺 健一（わたなべ けんいち）

総括地域防災調整官 糊澤 義一（くるみさわ よしかず）

工務課長 河野 逸朗（こうの いつろう）

管理課長 高橋 正樹（たかはし まさき）

令和5年度 荒川下流河川事務所 予算総括表

(単位:百万円)

予算科目	令和5年度 事業費	前年度 事業費			対前年度比
	当初予算	当初予算	補正予算	計	当初予算比較
河川整備事業費	4,909	3,891	3,714	7,605	1.26
河川改修費	3,722	2,782	2,811	5,593	1.34
一般河川改修事業	1,357	1,121	1,120	2,241	1.21
流域治水整備事業	40	40	0	40	1.00
特定構造物改築事業	2,325	1,621	1,691	3,312	1.43
河川維持修繕費	1,187	1,109	808	1,917	1.07
河川工作物関連応急対策事業費	0	0	95	95	—
都市水環境整備事業費	2,296	3,565	389	3,954	0.64
河川都市基盤整備事業費	2,012	3,176	389	3,565	0.63
総合水系環境整備事業費	284	389	0	389	0.73
事業費計 (諸費等を除く)	7,205 [※]	7,456	4,103	11,559	0.97

※上記のほか、受託工事費、工事諸費等があります。

※四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

2024年荒川放水路通水100周年



令和5年度 事業概要



2023

荒川放水路事務所

これまで一度も決壊することなく、東京・埼玉の沿川都市の発展を支えてきた「荒川放水路」に感謝を表し、荒川下流河川事務所ではなく、「荒川放水路事務所」と記載しました。

地方創生 SDGs
官民連携
プラットフォーム

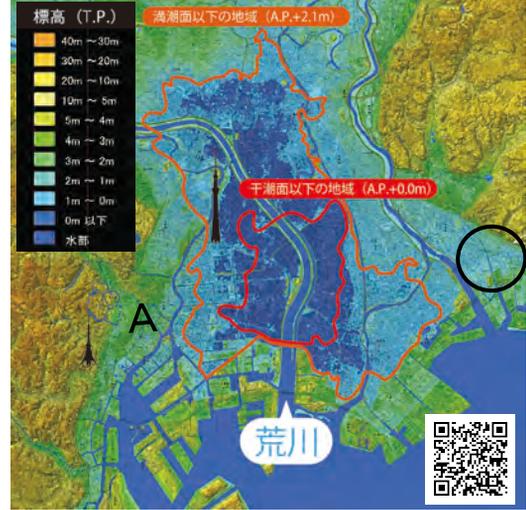


私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

荒川の概要・荒川放水路の歴史

荒川放水路は2024年に通水100年を迎えます

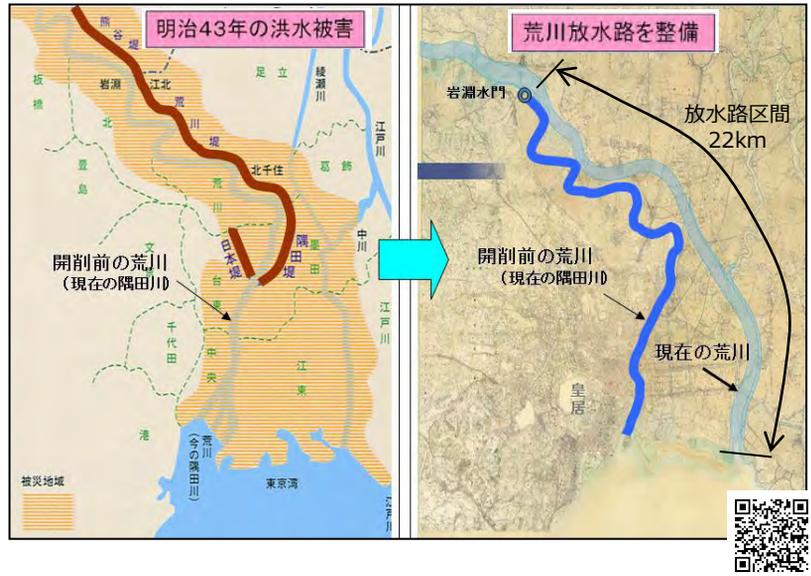
荒川の下流部は地下水や水溶性天然ガスなどのくみ上げによって、昭和20年代から30年代にかけて広域地盤沈下が発生しました。堤防や市街地が沈下し、満潮位以下の土地、いわゆるゼロメートル地帯が広く存在しています。一方で、人口や資産も極度に集中していることから、治水対策を進める事が非常に重要です。荒川下流河川事務所は、荒川下流部の約30km（荒川の笹目橋から河口まで）の区間で様々な施策を行っています。



荒川放水路建設

荒川の下流部のうち、岩淵水門付近から下流の約22kmは、洪水から首都圏を守るため昭和5年（1930）に完成した人工的に開削された放水路です。

当時、荒川（現在の隅田川）周辺では、江戸時代から明治時代にかけて、洪水が頻発していました。特に明治43年（1910）洪水は大きな被害をもたらしました。この洪水を契機として、洪水対応能力を向上させるため新たな放水路、現在の荒川を建設することとなりました。岩淵の下流から中川の河口方面に向けて、延長22km、幅500mの放水路を開削し、北区の岩淵に水門を造り本流を仕切り、大正13年（1924）に通水し、昭和5年（1930）に荒川放水路として完成しました。



荒川放水路通水100周年

荒川放水路は、1924年10月12日に通水式を実施し、来年2024年に通水100周年を迎えます。

荒川放水路の完成後一度も決壊することなく、東京・埼玉の沿川都市の発展を支え、荒川下流部の貴重なオープンスペースとして地域に寄り添ってきました。

荒川下流河川事務所では、沿川自治体と協力し、通水100周年に向けて様々イベントを企画し、盛り上げていきます。



通水100周年に関する
 情報はこちら



災害に対する取り組み

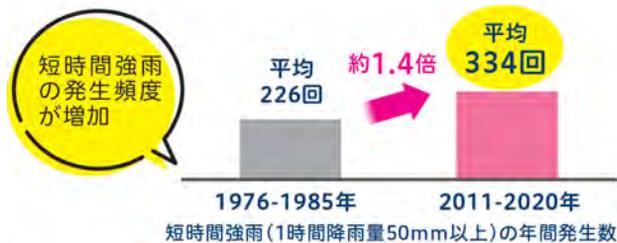
激甚化する水災害への対策<荒川水系流域治水プロジェクト>

■ 相次ぐ自然災害はもはや「日常」



荒川支川堤防決壊による浸水被害 (埼玉県東松山市)

球磨川における浸水被害 (熊本県人吉市)



■ 気候変動に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化

短時間強雨の発生増加や台風の大型化等、既に地球温暖化の影響が顕在化しているとみられ、今後さらに気候変動による水災害の頻発化・激甚化が予測されています。

気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2℃上昇時	約1.1倍	約1.2倍	約2倍
4℃上昇時	約1.3倍	約1.4倍	約4倍

<降雨量変化倍率をもとに算出した一級水系における全国平均値>

■ 荒川水系流域治水プロジェクト

河川管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換するため、流域全体で早急を実施すべき対策の全体像を「流域治水プロジェクト」として示し、ハード・ソフト一体の事前防災対策を加速します。



■ 荒川下流域 流域タイムライン



各取組の詳細は、以下から確認出来ます。

- 荒川水系流域治水プロジェクト
- 荒川下流域流域タイムライン
- 水害時の分散避難推進の手引き (R5.1公表)

2023年は関東大震災から100年・首都直下地震の対策

■ 関東大震災

2023年は、1923年（大正12年）に発生した関東大震災から、100年の節目に当たります。関東大震災の際には荒川放水路の建設中であり、1924年（大正13年）の通水目前に関東大震災により大きな被害を受けました。



関東大震災後の護岸の状況

■ 首都直下地震

都心南部を震源とする首都直下の地震では、人的・物的被害や経済被害は甚大なものとなると予想されています。

荒川沿川7区・東京23区の被害想定(冬の夕方、風速毎秒8m)

- 建物被害
 - 全壊棟数 区部全体の約52%
 - 沿川7区 40,177
 - 23区全体 77,031
 - 焼失棟数 区部全体の約39%
 - 沿川7区 39,809
 - 23区全体 103,282
- 人的被害
 - 死亡者数 区部全体の約46%
 - 沿川7区 2,625
 - 23区全体 5,722
 - 避難者数 区部全体の約47%
 - 沿川7区 1,276,718
 - 23区全体 2,719,909
 - 負傷者数 区部全体の約41%
 - 沿川7区 34,665
 - 23区全体 84,965
 - 帰宅困難者数 区部全体の約15%
 - 沿川7区 532,109
 - 23区全体 3,675,733
- 震災廃棄物 沿川7区 1,239万
- 23区全体 2,988万
- 震災廃棄物 区部全体の約43%

- ライフライン被害

	停電率	通信不通率	上水道断水率	下水道管きよ被断率	ガス供給停止率
沿川7区	23.1%	6.7%	46.4%	6.0%	48.5%
23区全体	16.3%	5.0%	34.1%	5.4%	31.2%

令和4年5月25日公表 東京都防災会議「首都直下地震等による東京の被害想定」をもとに作成

荒川下流河川事務所の取り組み

■ 耐震対策

堤防・水門樋管等の耐震対策を実施し、江東デルタ地帯を抱える高潮区間の堤防耐震対策を進めています。

■ 荒川は水陸輸送ルート

河川敷に緊急用船着場や緊急用河川敷道路を整備し、災害時の輸送ネットワークの構築を進めています。



■ 荒川下流防災施設運用協議会

河川敷道路や船着場等を震災時に沿川自治体や警察、消防、自衛隊等が有効かつ円滑に利活用し、迅速な災害活動に資することを目的として平成23年度から連携を進めています。

▶「荒川下流防災施設活用計画」の共有

墨田区・江東区・北区・板橋区・足立区
葛飾区・江戸川区・川口市・戸田市
東京都・警視庁・東京消防庁
埼玉県・埼玉県警察本部・陸上自衛隊

オブザーバ：荒川区・海上保安庁
東京国道・大宮国道
荒川上流



流域のあらゆる関係者の協働による、ハード・ソフト一体の水災害対策「流域治水」を推進します。

●令和5年度予算内訳

事業目的	予算額(百万円)
●治水対策、危機管理に関する事業	5,734
●環境の保全に関する事業	284
●維持管理に関する事業	1,187

合計 7,205 (百万円)

※上記のほか、受託工事費、工事諸費等があります。

●令和4年度補正予算内訳

事業目的	予算額(百万円)
●治水対策、危機管理に関する事業	3,200
●維持管理に関する事業	903

合計 4,103 (百万円)

凡例

- : 令和5年度予算
- : 令和4年度補正予算

各事業箇所の
ドローン映像はこちら



荒川下流管内区間

主要事業

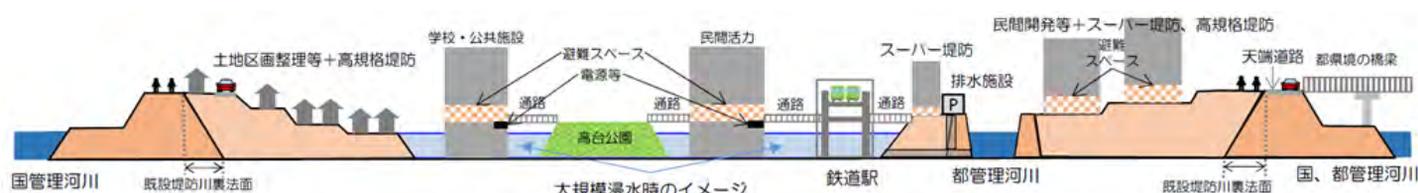
首都圏大規模水害から街を守る治水対策

高台まちづくり

- ④新田一丁目地区高規格堤防整備
- ⑤小台一丁目地区(Ⅱ期工区)高規格堤防整備
- ②⑥川口地区高規格堤防整備
- ⑦西新小岩地区高規格堤防整備



- 高規格堤防を整備し、その上面を活用した高台まちづくりを推進します。
- 国、都、地元区等が一体となり、避難のあり方や排水対策等を踏まえた高台まちづくりのあり方の検討や、モデル地区などの具体の地域における高台まちづくりを支援します。



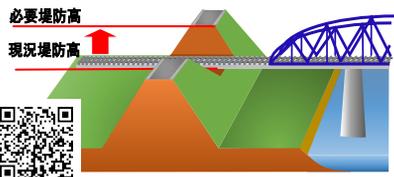
主要事業

主要事業

首都圏大規模水害から街を守る治水対策

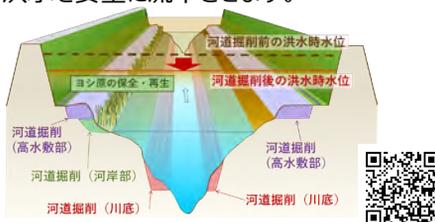
京成本線荒川橋梁架替事業

- ① ①京成本線荒川橋梁架替
周辺の堤防高さに対して低い堤防をかさ上げするため、支障となっている橋梁を架替えます。



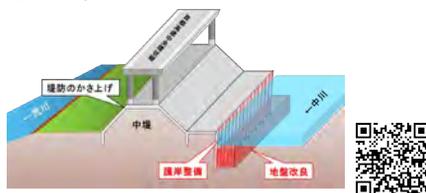
河道掘削

- ③ ②松島地区他高水敷掘削
高水敷部や河岸部の河道掘削を行い洪水を安全に流下させます。



高潮対策

- ④ 北葛西二丁目地区高潮対策
③ 北葛西一丁目地区高潮対策
高潮堤防のかさ上げ及び護岸整備・地盤改良を行います。



主要事業

良好な環境の保全・地域や市民との連携の推進

かわまちづくり

- ⑧ 板橋区かわまちづくり
自治体、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指します。



陸上競技場及び堤防天端をつなぐ連絡通路の整備イメージ

ヨシ原や干潟の保全・再生

- ⑨ 小松川橋上流左岸地区河岸再生
河道掘削とともに、河岸の緩傾斜化により水際部から高水敷のつながりを確認し、ヨシ原や干潟の保全・再生を行っています。



ヨシ原の再生事例 (千住桜木地区)

主要事業

安全性を持続的に確保するための維持管理

■ 巡視や点検等を行い災害に備えるとともに、誰もが安心して利用できる荒川を目指して維持管理を行います。

(1) 治水機能を支える維持管理



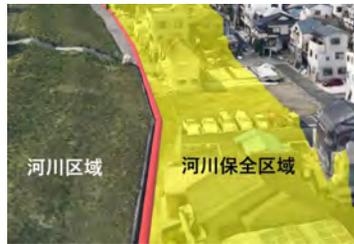
堤防点検、水門等の河川管理施設の保守・点検



堤防点検

河川巡視とともに、出水期の前などに職員が堤防を中心とした施設の状態を把握し、修繕等の対応をするため堤防点検を行っています。

3D河川管内図による維持管理検討



公開した3D河川管内図

令和3年度に公開した3D河川管内図を活用した河川業務の効率化・高度化の検討を進めます。

(2) 安心・快適な河川利用の促進



荒川下流河川敷利用ルールの周知



令和4年7月荒川下流河川敷利用ルールを一部改定しました。周知啓発を図り、河川敷を誰もが安全で快適に利用出来る環境を目指します。



安全利用点検



安全利用点検

河川に人が集まるGW及び夏休み前に、河川空間を安心して利用していただくため、施設の点検を実施します。

主要事業

地域や市民との連携の推進



■ 社会情勢の変化や地域社会のニーズに的確に対応した河川の計画・整備・維持管理・利用等を行うため、地域と国、住民と行政とのパートナーシップを深めていきます。

荒川水辺サポーター



水辺サポーター（千住桜木地区）

企業や市民団体からなる「荒川水辺サポーター」と、「沿川自治体」、「荒川下流河川事務所」の3者が連携して協働で自然地の維持管理活動を実施しています。

荒川クリーンエイド



荒川クリーンエイド

市民やNPO、沿川の自治体などと協力し、自然豊かできれいな荒川を取り戻すため、ゴミ拾い活動を進めています。

水辺の賑わいの創造（ミズベリング）



第12回ミズベリング荒川下流会議

住民、企業、行政と連携し、賑わい、美しい景観、豊かな自然環境を備えた水辺空間をまちづくりと一体となって創出します。

水辺の楽校



北区・子どもの水辺

子供達の自然体験や環境学習を支援するため、地域の方々及び地元自治体と協力して河川空間の整備しています。

荒川下流河川事務所について

荒川下流河川事務所

- 国土交通省 関東地方整備局
荒川下流河川事務所

〒115-0042

東京都北区志茂 5-41-1

TEL : 03-3902-2311 (代表)

http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/

- 岩淵出張所

〒115-0042

東京都北区志茂 5-41-2

TEL:03-3901-4240 FAX:03-3901-2442



- 荒川下流河川事務所、岩淵出張所へのアクセス
JR線赤羽駅より徒歩20分
地下鉄南北線赤羽岩淵駅または志茂駅より徒歩15分

- 小名木川出張所

〒136-0072

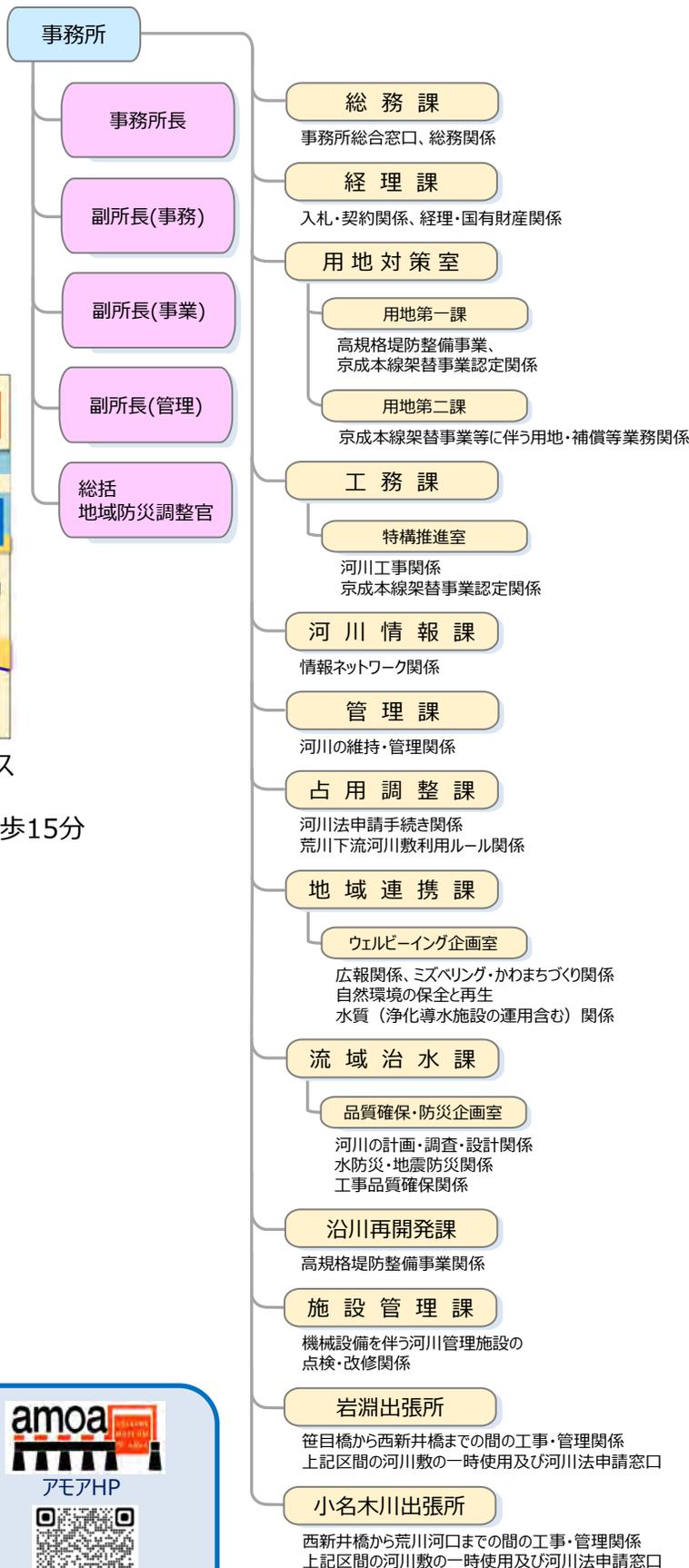
東京都江東区大島 8-33-26

TEL:03-3681-6131 FAX:03-3683-7453



- 小名木川出張所へのアクセス
都営新宿線東大島駅より徒歩 5 分

令和5年度の組織図



QRコード

事務所ホームページ



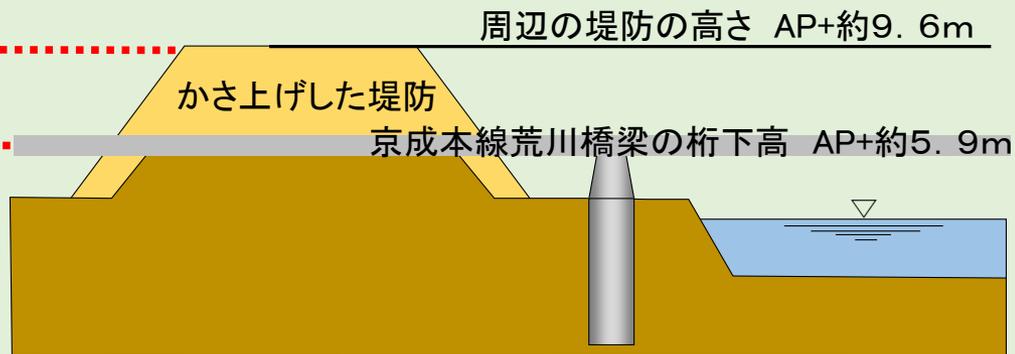
アモアHP



京成本線荒川橋梁

- 京成本線荒川橋梁は、荒川放水路の開削工事の際に架設されました。その後、広域的な地盤沈下が発生したため、対策として堤防のかさ上げを行いました。橋梁及び周辺の堤防の高さは低いままとなっています。
- 現在、橋梁の桁下高は周辺の堤防の高さに対して約3.7m低く危険な状態となっています。
- 事業の目的は、洪水を安全に流下させるために堤防をかさ上げすることで、堤防のかさ上げに支障な京成本線荒川橋梁及び綾瀬川橋梁の架替工事を行うものです。

京成本線荒川橋梁の桁下高は 周辺の堤防の高さに対して約3.7m低い

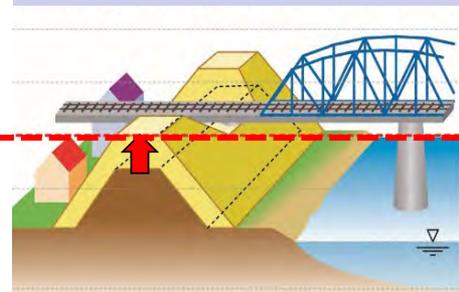
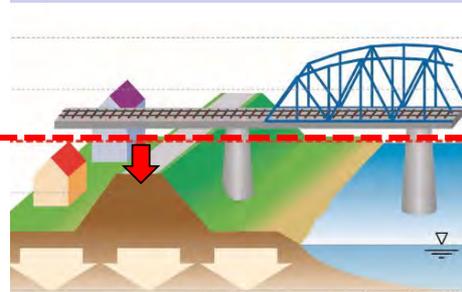
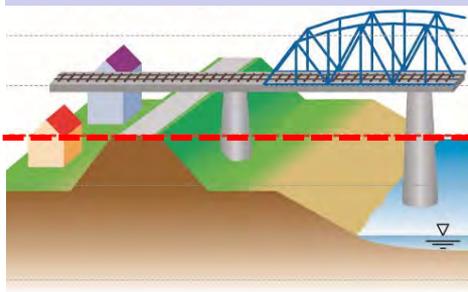


荒川放水路完成
(昭和5年)

京成本線荒川橋梁完成
(昭和6年)

地盤沈下
(高度経済成長期)

堤防かさ上げ実施



令和元年東日本台風時の京成本線荒川橋梁

- 戦後最大雨量(3日間流域平均)を記録した令和元年東日本台風による洪水では、ピーク時の水位が橋梁の桁下高まで、あと約1.2mの高さまで上昇しました。
- 足立区・葛飾区は、連携、協力して水防活動を行うことを目的とした「京成本線荒川橋梁に関する水防協議会」を設置し、令和2年7月に、水防訓練等で周辺の堤防の高さに比べ低い堤防の部分に土のうを設置しました。



令和元年東日本台風時の状況

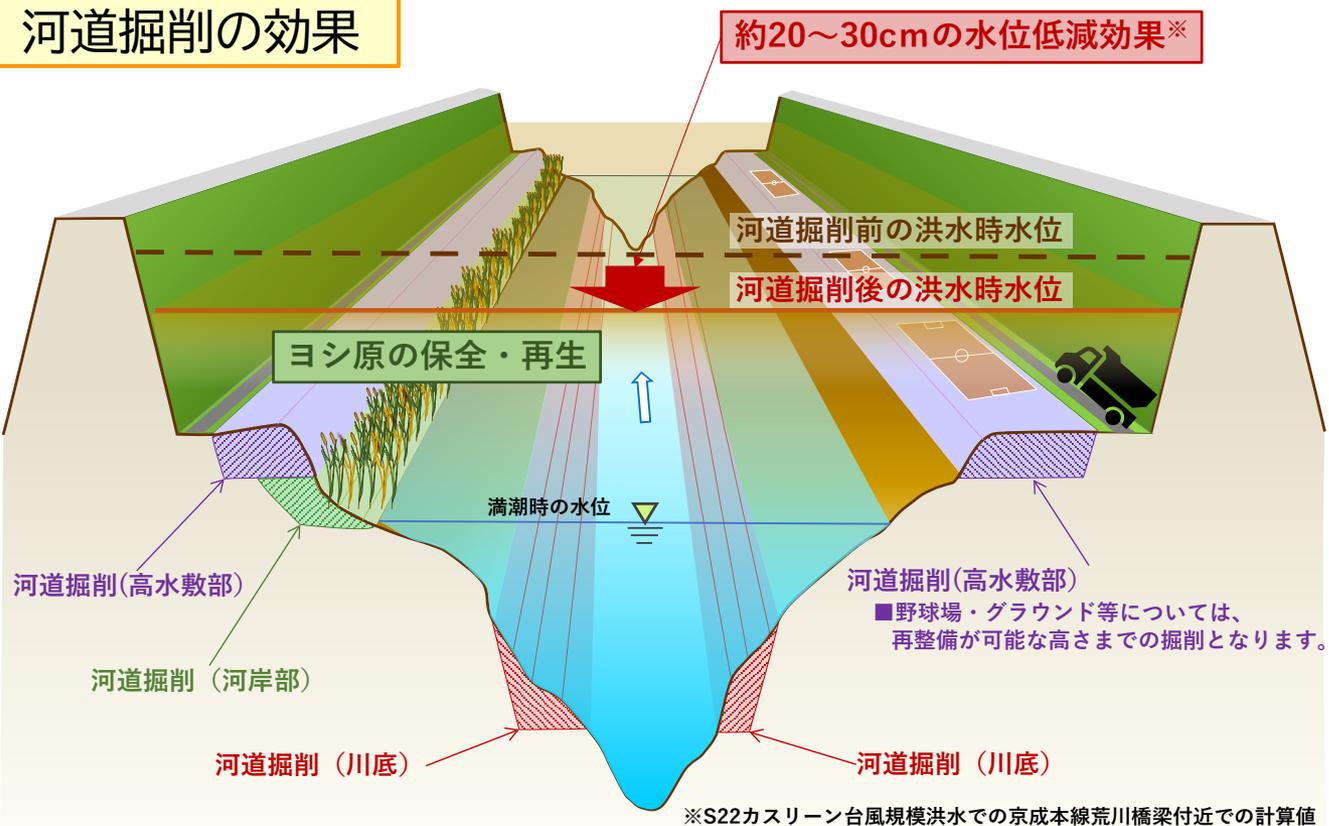


葛飾区合同水防訓練で設置された大型土のう(令和2年7月)

河道掘削 ～河川改修×自然再生～

- 河川整備計画の目標である昭和22年カスリーン台風と同規模の洪水を安全に流下させるため、河道掘削により京成本線荒川橋梁付近で約20～30cmの水位を低下させるとともに、その他の治水対策を併せて実施。
- 河岸部の河道掘削にあたっては、満潮時に冠水する程度の高さに整備し、荒川下流部にかつて存在していた多様性のある湿地環境の再生を目指します。

河道掘削の効果



ヨシ原・干潟などの湿地環境のイメージ

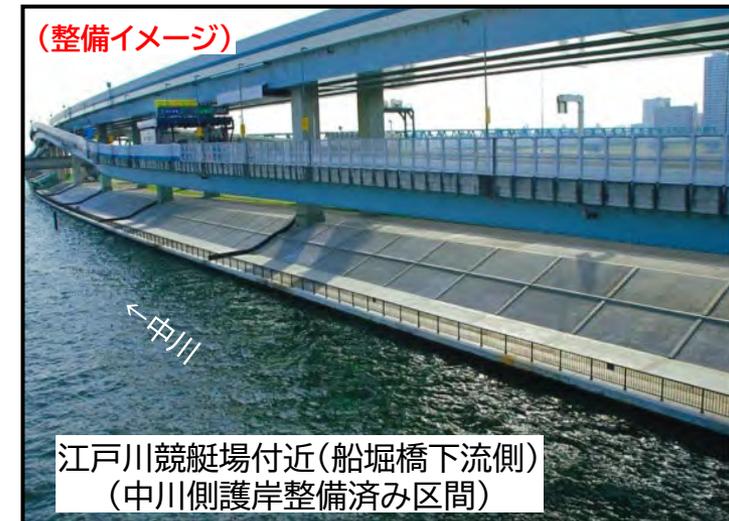
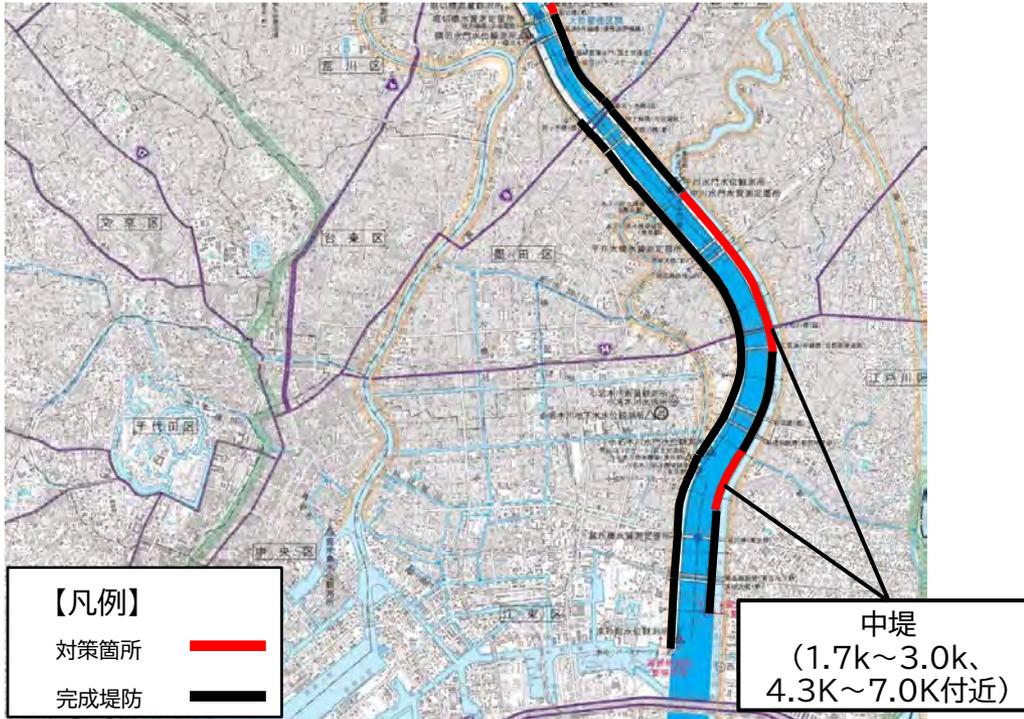


ヨシ原・干潟の代表的な生き物であるヤマトシジミ



ヨシ原の保全・再生事例 (江戸川区小松川地先)

○ 荒川の河口から堀切橋までの区間において、高潮堤防の断面形状に対して高さ又は幅が不足している区間等について、堤防のかさ上げ又は拡幅を実施します。



対策前

対策後



高台まちづくりのイメージ

建築物等（建物群）による高台まちづくり

〔平常時〕賑わいのある駅前空間
〔浸水時〕避難スペース等を有する建築物とペDESTリアンデッキ等をつないだ建物群により命の安全・最低限の避難生活水準を確保

平常時



浸水時



高台公園を中心とした高台まちづくり

〔平常時〕河川沿いの高台公園
〔浸水時〕緊急的な避難場所や救出救助等の活動拠点として機能。道路や建築物等を通じて浸水区域外への移動も可能

平常時



浸水時



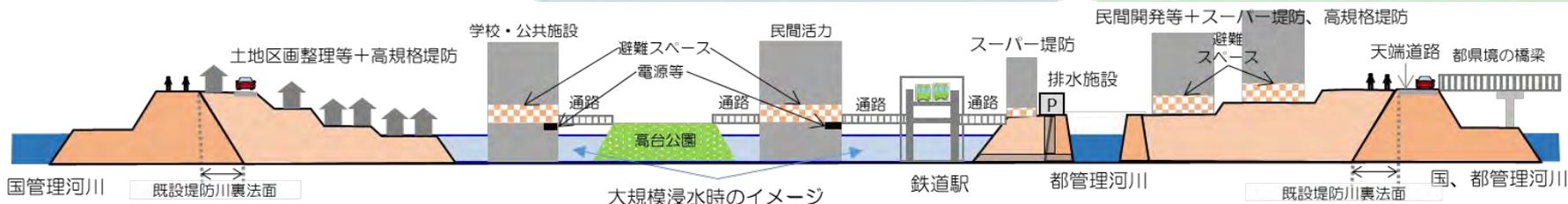
高規格堤防の上面を活用した高台まちづくり

〔平常時〕良好な都市空間・住環境を形成
〔浸水時〕緊急的な避難場所や救出救助等の活動拠点として機能。浸水しない連続盛土等を通じて浸水区域外への移動も可能

平常時



浸水時



新田一丁目地区 高規格堤防

【位置図】



【事業の概要】

都営住宅の取壊し・建替えに合わせて、
住宅敷地を東京都との共同事業により高規格堤防として整備。

【完成イメージパース】



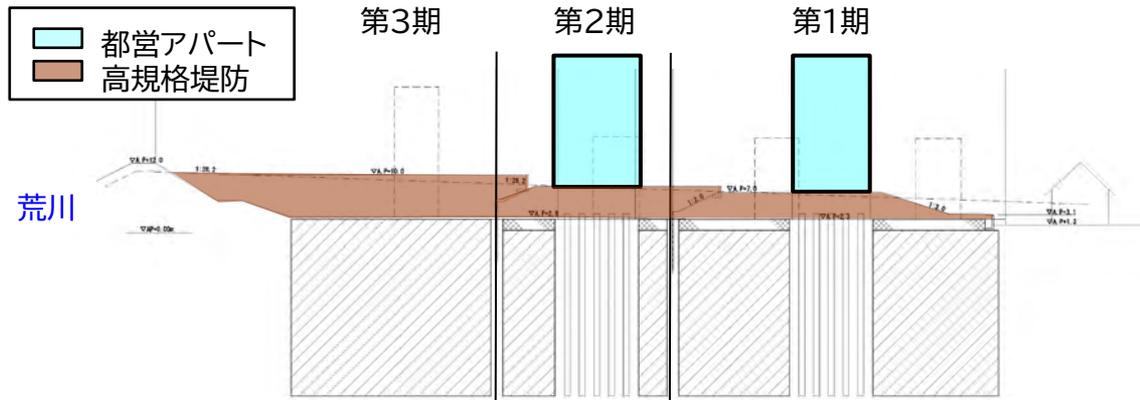
【位置】東京都足立区

【計画諸元】

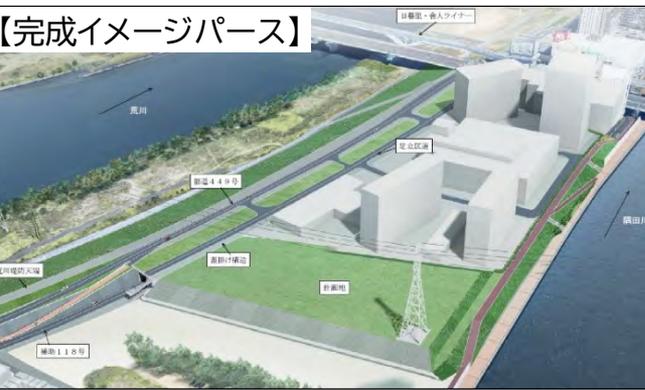
- 工期：平成29年度～令和11年度
- 面積：2.2ha
- 延長：L=100m

【関連事業】

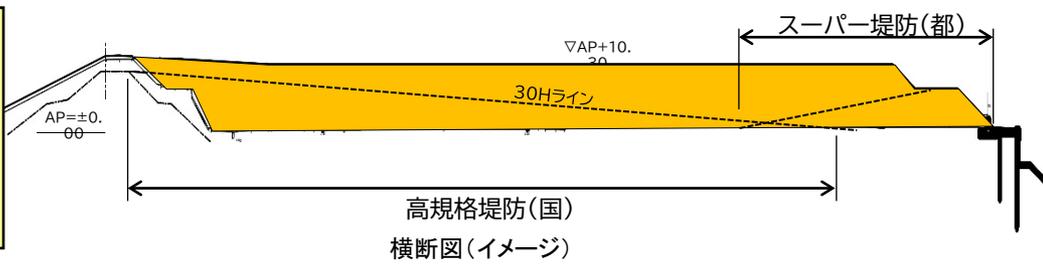
都営住宅建替事業(新田一丁目アパート):東京都



民間事業者の事業転換にあわせ、高規格堤防を整備



- 【事業内容】
- 事業箇所：東京都足立区小台一丁目地先(荒川右岸16.0km付近)
 - 整備延長及び堤防幅：延長約90m、幅約220m
 - 堤防面積：約1.7ha
 - 工事概要：盛土工1式、地盤改良1式、周辺整備1式
 - 事業期間：平成30年度～令和5年度
 - 共同事業者：民間事業者



令和2年10月撮影

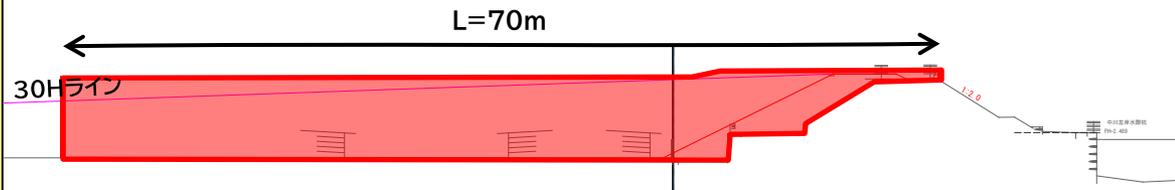
西新小岩地区高規格堤防

【事業の概要】

民間事業者の敷地内の再配置にあわせ高規格堤防を整備



【標準断面図】



【事業内容】

- 事業箇所 : 東京都葛飾区西新小岩三丁目地先 (荒川左岸(中川左岸)6.75k付近)
- 整備延長及び堤防幅 : 延長約200m、幅約70m
- 堤防面積 : 約1.3ha
- 事業期間 : 平成31年度～平成40年度
- 共同事業予定者: 民間事業者

板橋区かわまちづくり 整備イメージ



凡例
 〓 整備箇所(国)
 〓 整備箇所(区)

駐車場の再整備

リバーステーション
親水護岸整備

プロムナード

かわまちづくり計画範囲

連絡通路(河川区域内)、階段

連絡通路(河川域外)

<整備イメージ(連絡通路、階段)>

<利活用イメージ>

